

令和3年12月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和3年12月23日（木） 午後4時00分～午後4時35分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	板山 英信
委員	美濃部俊裕（教育長職務代理者）
委員	廣田 光前
委員	宮本 麻里
委員	中村 亜紀
委員	松宮 誠也

4. 欠席者

なし

5. 出席事務局職員

教育部長	酒井猛文
次長	鵜飼康治
次長	清水伊佐雄
教育総務課長	服部稔
教育改革推進室長	中北隆尚
教育指導課長	笥敏弘
すこやか教育推進課長	宮本安信
幼児課長	中島尚子
教育センター所長	織田恭淳
教育総務課長代理	前嶋美和
教育総務課副参事	西川洋輔
教育総務課主事	伊賀並樹輝

6. 傍聴者

なし

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

議案第 36 号 長浜市立幼稚園における預かり保育の実施に関する規則
の一部改正について

日程第 5 協議・報告事項

(1) 令和 3 年長浜市議会 12 月定例会一般質問答弁要旨について

3. 閉 会

Ⅲ. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

廣田委員、松宮委員

3. 会議録の承認

11 月定例会

特に指摘事項はなく、11 月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：日程第 3、教育長の報告でございます。

本日市内の校園全てが終業式を迎えました。2 学期は 18 週ございまして、年度の中でも一番長く、大きな学校行事もたくさん控えている学期でした。9 月に緊急事態宣言が発出され、先行きも不安な中でスタートしたのですが、各校園ともに様々な努力や工夫をしていただきまして、日程変更等もありましたが、大きな学校行事はほとんど実施することができました。

修学旅行につきましては、全ての学校が実施し、無事終了しております。

令和 3 年度はまだ途中ではございますが、ひとまず令和 3 年が無事終わるといことで、皆さんに感謝申し上げたいという率直な思いでございます。

5. 議案審議

議案第 36 号 長浜市立幼稚園における預かり保育の実施に関する規則の一部改正について

教育長は事務局に説明を求め、幼児課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：預かり保育の要件を一部拡大するという解釈でよろしいですか。

幼児課長：はい。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

6. 協議・報告事項

(1) 令和3年長浜市議会12月定例会一般質問答弁要旨について

主な質疑応答は以下のとおり

宮本委員：12ページの高山議員の質問に化学物質過敏症のことが書いてあります。

給食の際、白衣を当番の時だけ着て、その当番が終わったら家で洗濯し、次の日は違う子が着るという扱いをされる学校があり、家によっては柔軟剤入りの洗剤を使っておられて、違う家から回ってきたものを着ることによって、健康被害が出ることがあるというのを聞いたことがあります。

私の子どもが通っているところは、給食のときに自分の白衣を着るのと同じものを着ることができるのですが、市内の学校で白衣を共有している学校があるのかどうか分かれば教えていただきたいです。

教育部長：白衣の共有という話は市内では聞いておりません。

今ご心配いただいている化学物質過敏症による健康被害についても、学校で該当する事例は全くないという状況でございます。

白衣の共有については、これからそういった事案も出てくるかもしれませんので、学校に通達をさせていただきたいと思います。

廣田委員：個人個人のアレルギーの反応がありますから、私は共用することはありません。いいことではないように思います。

教育長：今は違うのかもしれませんが、私が中学校で教員をしていたときは、給食当番が終わると白衣を持ち帰って洗濯して次の子に渡すという状態でした。

今はそういう学校は少ないのでしょうか。

教育指導課長：事務局として白衣の共有に関する調査は現在しておりません。

宮本委員：当番じゃない子も白衣を着たまま食べているようであれば、それぞれ個人が持っているのでもいいと思うのですが、当番の子だけが着るとなるとどうしても難しくなると思います。

美濃部委員：あまりそういうことはないと思います。私も聞いたことがありません。

宮本委員：今は柔軟剤にも匂いがすごく強いものがあり、いい匂いがするという理由から、海外の柔軟剤を使われることもあります。本当に香水をつけているような匂いがします。敏感じゃない人でも感じることもあるくらいです。

中村委員：7ページの藤井議員の再々問のところで、生活習慣や学習環境を整えることが学力の向上につながっていくということをおっしゃっています。先日

の園訪問の際に、保護者のお仕事の環境や、不規則な生活リズムの影響により、登園時間に間に合うように来ることが難しかった子どもがいて先生から説明がありました。生活リズムを整えることが大事だと思いました。

幼児課長：近頃は様々な働き方があると思いますので、家庭によっては夜遅くまで子どもさんが起きていらっしゃるということも実際あると思いますが、早寝早起きが大事だということはどの園でも啓発をさせていただいているところです。

廣田委員：今の話はとても大事な話で、お子さんの睡眠時は成長ホルモンが一番盛んに分泌されているそうです。睡眠時間はとても大事です。

教育長：今回議員の皆さんから学力に関するご質問を頂戴しているのですが、今確実に進んできていると思うのは、市内の学校で指導の第一線に立っておられる先生方の意識が確かに変わりつつあるということです。何とかしないといけないという気持ちが起こりつつあると思います。

そういう手応えをこの令和3年度で一番感じさせていただきました。小学校について、今年は数値が下がってしまったのは残念ですが、この程度の上がり下がりを見ながら、全体的に右肩上がりの状態をずっとこのまま保っていきたいというのが率直なところです。

ここまでたどり着いたらそれで目標は達成したというものではありません。基礎学力が身につけていない子ども、または非常に学力が高い子どもをもっと伸ばしてあげるといった課題は永久について回るので、取組を続けていきたいという思いです。

未来を担う長浜っ子育成プロジェクトについて、3年目が終わるのですが、1年、2年やって教育長や教育委員の皆さんに報告書を出して終わり、ではないという思いで取り組んでいます。この取組もだんだん輪が広がってきております。自分からやりたいという先生もおられました。一つ一つの積み重ねが大切だと今改めて思っているところでございます。

I C T教育機器も今年度全国的に入ってきました。ある大学の先生が、I C T教育機器の有効活用の必須条件は教師の指導力にある。教師が自分の授業を受けている子どもたちに力づくで言うことを聞かせるのではなく、この先生の授業はしっかり頑張ろうというような学級に育っていなければ、結局有効活用とはまた別次元の問題になるとおっしゃっていたそうです。

私も全く同意見ですが、勝手に身につくものでもありませんので、そのような先生を育てていくという視点で今後も取り組まなくてはいけないという思いでございます。

7. その他

教育長：園訪問に行っていただいた感想など、お気づきになられたことがあればご発言ください。

美濃部委員：どの園もすごく子どもたちが落ち着いて、また活発に動かないといけないところでは元気に過ごしていました。先生方も非常に落ち着いて整然とした中で活動していただいております、大変安心し、ありがたいことだと思って見せていただきました。

あと気がついたのは、いろいろ協力していただいていた地域の人との連携が、このコロナによって少し途絶えているというようなお話が随所に聞かれました。地域の方との連携が復活するということも大事ではないかと思います。

宮本委員：天気の良い日も何日かあったのですが、室内でも思い切り走り回って遊んでいる姿を見られてよかったと思いました。

マスクをして隣の友達と距離を取って過ごすということを当たり前のようにしていて、小さい子も、ずれたマスクをちゃんと自分で直せていました。先生方とお話をさせていただいて、いろんな先生と連携しながら、毎日登園してくるときの子どもさんだけではなく、保護者のマスク越しの目の表情を見て声かけをするように取り組んでいるというお話を聞いて、さすがだなと思いました。保護者の方々もなかなか相談する場所がなくて本当に困っている方もいらっしゃると思いますが、そういう細かいところまで見てくれているのだと感じました。

さくらんぼ保育園では、お誕生日のときに保護者が園に行っておケーキを作るという取組が30年続いているということを聞かせてもらいました。園の先生も準備するのが大変だと思いますが、過去の写真を見せてもらおうと、本当に喜んでいる様子で、そんなスペシャルなことを30年も続けていただいているというのは感動しました。

いろいろ教えてもらいながら回らせてもらおうと色々な発見があり、もっと行きたいと思いました。

松宮委員：各園それぞれ特色があって面白かったのと、一日中子どもの相手をしていただくということに本当に敬意を表するばかりです。

幼稚園は在園児が少なくなってきたり、部屋が余っている状態でした。これは裏返してみると、1人にかける先生の力というのが大きくなったので、子どもたちによってはより長く先生と触れ合えるというようなメリットもあると思います。在園児が少なくなったことだけで悲観すべきことではないと思うのですが、一方で保育園や認定こども園はあふれているぐらいの形になっているので、もう少し分散できる工夫が何かないかなと自分なりに考えています。

園それぞれに特色があって、特にすごいなと思ったのは湖北幼稚園です。年長の子どもたちが逆上がりを連続でしたり、2階くらいの高さまで綱を登っていたりしていて本当に驚きました。体力に力を入れているのが一目で分かって、実際効果が出ていると思いました。そういう特色がどこまで保護者に伝わっているのかというのが気になったところです。

ここに行くと子どもたちがどう変わる、最終的にどうなるんだといった園な

りの目標みたいなものがもっと伝わってくると、選択肢の一つになってくるのではないかと思いました。

そういう園ごとの特色をもっと強くPRできる手法があると、保育園のほうに偏らない効果が少しはあるのではないかと思いました。

中村委員：私が行った幼稚園の中には預かり保育をやっておられるところもあったので、保育園と幼稚園どちらに行くかということを、どのように保護者の方も選んでおられるのか、親の立場になっても分かりにくいのではないかと思います。

あと、朝の通園の交通整理が大変そうでした。車で送迎されることが多いようですので、交通整理も先生方の負担になっているのではないかと思いました。そういった園の運営だけじゃない仕事もあるということが行ってみて分かりました。

廣田委員：1歳児や2歳児の担当をされている園の先生は本当に重労働です。1人で何人も見ていただいている。本当によく頑張っていると感じています。

私の地元でも、子どもたちは落ち着いていて、悪いイメージはないです。先生方がよく頑張っている印象です。

8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。